

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町受理日	平成31年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国250箇所以上のGHを展開させております。その中で当ホームは、中国九州エリアと地域としては広いですが、周南市、廿日市市にそれぞれ同系列のホームがあります。そのホーム間で情報共有が行える体制を作っており、他ホームへの行事手伝い・新卒同期の研修等連携を図っております。又、ホームでの「夏祭り」・ラン伴参加等を通じて、地域との連携を意識した運営を実践しております。「その人らしい生活」が営まれる様、個別支援に関しても、対応しております。若手スタッフも多く、各行事では「若さ・元気」いっぱい盛り上げてくれております。「日々考え、自ら実行する」事を意識する取組みとして、気付きの共有・各スタッフが1企画のイベントを考え、実施していくなど、スタッフの個性を発揮できる環境整備にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、理念の中にある「その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフ」の実現を目指され、利用者が日々笑顔で過ごしていただけるように支援されています。職員は、利用者と日々の触れ合いを通して、感じたり、気づかれたことの中から導き出された「一人一企画」のイベントを実施され、職員が自慢の中華料理を振る舞ったり、蛍の舞う時期に鑑賞に出かけられたり、普段は行かないリゾート型大型スーパーで買物をされるなど、利用者一人ひとりの生き活きた場面づくりにつながっています。職員の自由な発想を生かした取り組みは職員の自主性や仕事に対する意欲を高め、サービスの質的向上や職場への定着につながっています。家族との関係づくりでは、年1回実施されている家族アンケートからの入浴回数の増加や外出機会の増大への希望に対しても個別に対応されたり、年末年始には家族や親戚の泊りを受け入れられ、利用者との団欒のひとときを提供されるなど、家族との信頼関係を築いておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に運営理念の復唱。事業所内での理念・各ユニットの目標をそれぞれ掲示し、日々のケア・実践に繋げております。又、期初には各スタッフへホーム長自身の目標を伝え、各々が実践出来る環境整備をしています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念とその理念に基づいたユニット毎の目標を事業所内に掲示している。管理者は職員が地域とのつながりを持つことで、利用者が毎日活き活きと暮らせるように、理念の共有を図り実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、町内会の清掃・運営推進会議の参加の声掛け・地域イベントへの参加等を行っています。特に地域主催・市内主催のイベントには積極的に参加し、交流を図っております。又、近隣ケアハウスと連携し、各々のイベントへの参加・近隣幼稚園の定期訪問・夏祭り等ホームへ足を運ぶ機会を設けております。	自治会に加入し、職員は年1回河川清掃に参加している。利用者は自治会主催の盆踊りや敬老会、どんど焼き、中学校での豆腐づくり体験、日米合同の地域コンサート、近隣のケアハウスの秋祭りに職員と一緒に参加して交流している。事業所主催の夏祭りには地域住民や子ども達を招待し、ゲームや模擬店（焼きそばやちらし寿司、たこ焼き、フランクフルト、バザー等）を出店して、楽しい交流となっている。地元幼稚園児の年3回の来訪（プレゼント交換、遊戯の披露）やボランティア（舞踊、歌、ホルン演奏、ウクレレ、フラダンス、押し花づくり、チンドン隊）で来訪の人と交流している。高校生の職場体験を受け入れている。近くのスーパーマーケットでの買物時や喫茶店の利用時に会える近所の人と挨拶を交わしている他、野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。又ご家族様・地域の方々からの相談・問い合わせに対し、真摯に対応しております。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行う際、ガイド集を全スタッフへ説明しています。全スタッフが前回の内容を参考に作成に携わってもらっています。前回の改善点等につきましても、全体会議等で周知し、外内部研修に繋げております。	管理者は全体会議の中で、評価の意義を説明し、ユニット毎に話し合い、ユニットリーダーがまとめたものを最後にまとめている。前回の外部評価を受けて、目標達成計画を立て、事故防止の取組みや事故発生時の備え、災害訓練へ住民参加の呼びかけなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回必ず運営推進会議の開催行っています。ホーム内活動報告が主となっておりますが、近隣施設長の参加もあり様々な目線からの意見をいただく事が出来ています	会議は2カ月毎に開催し、事業所の活動状況や行事予定、豪雨災害について、防災訓練報告、身体拘束に関する報告、福祉サービスの加算取得について、自己評価および外部評価報告の後、話し合いをしている。事業所の試食会や防災訓練を同日に実施しているなど、会議開催の工夫をしている。参加者から地域での開催行事の情報を得ているなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等あれば、電話や直接出向いて助言を得ています。又、市からの伝達等に関しても、メール・FAX等で随時確認し、市が主催する集団指導・年1回開催される市内GH協議会との話し合いにて意見交換をしております。	市担当者とは電話や直接出向いて、情報交換や運営上の疑義について相談して助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や直接出向いて情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っております。又、不適切なケアについても注力しており、随時研修・スタッフによるチェックシートでの確認等、定期的におこなっております。	「身体拘束廃止マニュアル」を基に、スピーチロックも含めた内部研修を3ヶ月毎実施し、併せて「身体拘束チェックシート」と「虐待、不適切なケアチェックシート」による自己評価の取り組みを通して、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。今年度から「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月毎に実施し、自己評価結果の報告を運営推進会議に報告をしている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者がいれば職員と一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。又些細な傷に関しても、必ず状況を確認し、虐待に繋がらないケアを実践しております。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見人制度を利用しています。以前、成年後見人の方より制度に関するミニ講演をしていただき、参加可能なスタッフも話を聞かせていただきました。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っております。又、改定等の説明、疑問を抱かれておられるご家族様へは、個別で説明をし、理解していただいております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けています。ご家族様のニーズに合わせた報告内容を都度模索・変更等し、ご家族様へ詳細な伝達をしております。又、2回/年の家族会・日々の面会時・必要に応じてお電話等で、個別にお伺いしております。	相談や苦情の受付体制、外部機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議時、年2回の家族会時、夏祭り行事参加時、年1回の家族アンケート、電話等で意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。苦情や相談は「申し送り簿」に記録して職員間で共有している。家族アンケートの集計結果は事業所内に掲示するとともに、運営推進会議で報告をしている。毎月、利用者を担当している職員が、「お知らせ」として、管理者の挨拶や利用者の状況(生活の様子や身体面、医療面、食事メニュー、バイタルチェックなど)を送付して、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族からは利用者の入浴回数や外出機会についての要望があり、運営に反映している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回スタッフとの個人面談を実施し、全スタッフから意見・要望等を聞き取りしております。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。各自が意見しやすい関係構築を図る為、全体会議内で、各々に発言する機会を設けております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしております。	管理者は毎月実施のユニット会議や全体会議、カンファレンス時、年3回の個別面談時（マナーや介護技術、リーダーシップなど）に職員の意見や提案を聞いている他、日頃からユニットに出向き、職員に気軽に言葉をかけて、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは勤務時間の変更や脱衣室のエアコンの購入、環境整備のためのゴミストッカーや清掃用具の購入等についての提案があり、運営に反映している他、「一人一企画」の提案制度の実行に取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人面談を通じて、それぞれが「やりたい事・特技」を委員会として実践しています。大きな行事には、実行委員会を設け、全員で1つの行事に取り組み、達成感を感じてもらっています。無資格のスタッフには、会社制度を利用した資格取得を促しております。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があれば、都度回覧し参加を促し、内容によっては、こちらから指定し、研修誘導しております。又、毎月本社からの資料を基に、内部研修を実施しています。その他、事務・調理・入社・中堅等レベルに合わせて、各研修を実施しております。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として、受講の機会を提供している。受講後は報告書を提出し、内部研修で伝達してもらい、資料は常時閲覧できるようにして職員全員が共有している。法人研修は、ユニットリーダーや中堅、調理、新人を対象に計画的に実施している他、インターネットを活用したEラーニングや一定の地域を定め、管理者を対象としたエリア研修を2カ月に1回実施（各施設の見学、感染症、グループホームとは、コミュニケーションなど）している。内部研修は、全体会議の中で毎月1回、管理者が指導者となって接遇やコミュニケーション技術、感染症の予防と対策、認知症の基礎知識、身体拘束・高齢者虐待防止、プライバシー保護・権利擁護、看取りについて、食中毒の予防、倫理及び法令遵守等について実施している。新人は法人での新人研修を受講後、日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。近隣施設とは行事等通じて、密に交流を図っており、近隣デイサービスの運営推進会議等にも参加しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき ご本人様やご家族様が困っていることや、不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、ご家族様が不安なく利用者様を入居出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。要望等もケアプランに反映しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、提案させていただいています。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、こまめに連絡を取り、都度対応しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況などテーマを決め、又毎月の新聞発行と共に、お手紙を送付しています。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会・入居前に住んでおられた町へのドライブ、又馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。個別活動を通じて、生まれ故郷への外出支援等を実施しております。	家族の面会や兄弟、親戚の人の来訪があり、年末年始の宿泊にも対応している他、手紙や電話での交流を支援している。教え子が開業している馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、敬老会へ参加、一人一企画として郷里に出かけるを支援している。家族の協力を得て、外出や外食(誕生日や通院の帰り)、ドライブ、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション・両ユニット合同食事会等通じて、仲良く出来る様、努めています。又、コミュニケーションが取り難い方に対しては、スタッフが間に入り、関係作り構築に努めております。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院にお引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。退居後も、運営推進会議・ホーム訪問・イベント案内等継続しております。又、近隣でお会いした際は、気軽に声を掛けさせていただいております。必要に応じ、転居先に連絡をしたり訪問等行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前は可能な限り、ケアマネ・ユニットリーダーと共にご家族様・ご本人様とお会いし、意向をお聞きしています。入居後は、ご家族様との面会等の中から意向の把握に努めております。ご本人様のお話を傾聴する中からの把握、困難な方へは、ご家族様の意見・各ユニット会議等での情報共有を図り、把握に努めております。必要に応じ紹介して下さったCM等から、情報収集をしています。	入居前には事前訪問をして本人や家族から、これまでの暮らしや現在の状態、願いやして欲しいことなど、思いや意向を把握してアセスメントシートに記録している。日々の関わりの中での利用者の会話や表情、生活状況や行動を「介護記録」に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合はカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。又、回想法等用いて、情報収集に努め、日頃のケアに反映しています		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、看護師との連携を図ると共に、入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に1回はユニット毎のカンファレンス、困難事例に関しては、全体会議内、半年ごとのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成、その他年2回の家族会での意見を元に、計画作成を行っています。	利用者を担当している職員と計画作成担当者が中心になって月1回、ユニット毎にカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師、職員の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、その都度見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、申し送りノート・健康シート・を設置し、職員間での情報共有を図っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。必要に応じたサービスを取り入れる様に取り組んでいます。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に一緒にお連れしたり、近隣の散髪屋へカットに行ってます。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいいケアクリニックDrによる往診があります。協力医療機関とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が出来ています。又、ご利用者様ご家族様の意向を確認しながら、別途歯科訪問・個別マッサージのご案内をしています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は2週間に1回の訪問診療があり、24時間オンコール体制である。その他の医療機関への受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。歯科は必要に応じて往診があり、毎週1回、歯科衛生士による口腔ケアの指導がある。個別マッサージの希望にも対応している。結果は「受診報告書」に記録し、家族には毎月の「お知らせ」や事業所便り、管理者の手紙、出納帳等と一緒に送付している。法人看護師が定期的に来訪し、利用者の健康管理や相談を行い、医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。又、入居者様が入院中は、スタッフがお見舞いにも行かせて頂いています。病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、退院後は状況に応じたケアプランの元、ケアをしています。一日も早く退院していただける様、ご家族様・病院と連携を図っております。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や契約時に、看取りに対してご家族様の想い、ホームでの対応について、お話をしています。又ADL低下・体調の変化に応じ、ご家族様へ説明、必要に応じDrとの意見交換の場を提供しております。終末期の方に対しては、ご家族・往診医・必要に応じ訪問看護等と連携し、対応しています。ご家族様の希望があれば、ホームに泊まっております。	「重度化した場合の対応にかかる指針」及び「看取り介護にかかる指針」があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から利用者と家族の意向をふまえた上で、主治医や看護師、職員と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。看取りに対する支援もあり、職員は内部研修で「看取り」について学び、主治医の指示によって対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	主にヒヤリハット・事故報告書を基に、同じ事故が起こらない様、取り組んでいます。必要に応じ緊急カンファを短期集中で実施、各々の情報共有・対応の見直し等に繋げております。又、各ユニットにマニュアルを設置・急変時等には対応表を掲示し、誰もが対応出来る様配慮しています。全体会議内でも、事故防止・予防の研修を実施しています。近隣施設と協力し、普通救命講習へ参加しております。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書に原因や対応、予防策を記録し、管理者の意見を添えて回覧して、共有すると共に、月1回の全体会議の中で再度検討して利用者一人ひとりの事故防止に努めている。消防署が主催する救急救命法やAEDの使用方法的の研修に職員8名が参加し、内部研修で急変時の対応や感染症予防、喉の詰まりなどを実施しているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。11月には運営推進会議構成員も参加していただき、直接火災時の動きを見ていただき、いざという時の協力体制構築の体制を構築しています。又、自治会での河川清掃へ可能な限りスタッフも参加(今年:3名)してもらい、地域の方々と交流を深める事で、気軽に足を運んでいただける関係を築いております。	年2回(1回は消防署の協力を得て)、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火器の使い方、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。避難訓練には運営推進会議メンバーに見学してもらい、意見交換をしている。緊急時の連絡網には班単位での連絡網や近隣の福祉施設との連携はあるが、地域との協力体制が十分とはいえない。災害時に備えて2日間の食糧を備蓄している。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前、入居後とアセスメントを行い、その人らしいケアについて、定期的にかンファ・サービス提供者会議を開催しています。又、スピーチロック・不適切なケア等、定期的に年間計画に沿って、社内研修・スタッフ間でのディスカッション等実施しております。対応困難な方に対しては、スタッフ都合の対応・考えにならない様、全体会議でも議論し、全スタッフで対応していく環境整備をしております。	職員は内部研修(接遇、倫理、権利擁護等)での学習や、カンファレンス時の不適切なケアについての話し合いを通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報情報は適切に管理し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情・心の声に耳を傾け、口に出せない要望や悲しみ・苦しみなど受容できる様、心掛けております。又、必要に応じ、ご家族様からの情報収集に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その人らしい自立した生活が安心して送れる様配慮しています。起床から食事・入浴等、生活全般の中で、その人の生活習慣を尊重した支援を心掛けております。必要に応じ、個別支援を実践しております。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装と一緒に選ぶなどし、いつも若々しい気持ちで過ごせる様にしております。又、お出かけに行く際には、お化粧品などの支援も行っています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で一括したメニュー配信がありますが、季節・行事・イベント等に合わせて、臨機応変に対応しております。又、下ごしらえ・食事の盛り付け・トレイ拭き・食器洗いなどスタッフと共にしております。ご利用者様の嗜好に合わせて朝食のパン食回数を増やす・お刺身等ホームでは提供できない食材等は個別に買い物等に個別で実施しております。その他合同食事会・定期外食等、食事が楽しめる支援を工夫しております。食事摂取量低下が見らる時には、付加食を工夫し手作りにて提供しています。	食事は三食とも法人の管理栄養士が献立を立て、家族や近所の人からの季節の野菜の差し入れを使って事業所で食事づくりをしている。朝食は職員が調理し、昼食と夕食は専任の調理職員がつくっている。利用者の好みや形態(刻みやとろみ、ミキサー食)の工夫、自助具の利用、これまで使っていた食器や箸を使うなど、利用者一人ひとりに合った食べやすい食事を提供している。利用者は食材の買物や野菜の下ごしらえ(皮剥き、切る、乱切り)、混ぜる、ホットプレートで焼く、カップに入れる、盛り付け、トレイ拭きなど、できることを職員と一緒にしている。メニューは食べやすさと馴染みのメニューを主としている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら同じ食事を摂っている。おやつづくり(ホットケーキ、ピザ、プリン、ゼリー)や弁当を買って公園に出かけての戸外食、誕生日の外食、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、年越しそば、雑煮)、喫茶店の利用、家族との外食など、食事を楽しむことの支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせて食事の盛り付け量・食器等で工夫しております。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っていただいています。義歯の衛生管理も都度行っています。又、唾液がしっかり出る様、意識して話しかけております。ご家族様の希望があれば、外部歯科の往診を受けていただいております。食後はご利用者様へ声掛け・介助等にて口腔ケア・食前には口腔体操を実施しております。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、無理のない範囲での「自立」を意識しております。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者個々への対応方法はカンファレンスで話し合って支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又ラジオ体操・風船バレーなど適度な運動や、水分量の把握・飲むヨーグルト飲用等、体調管理に努めております。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日・別のスタッフが交代するなどして、無理強ひなく入浴して頂ける様、支援しています。又、男性スタッフが苦手な入居者様に対しては、女性スタッフが対応等しております。入浴困難な際は、清拭対応にて清潔保持に努めております。	入浴は、毎日、15時から17時までとしているが、希望に応じて午前中でも可能である。入浴時間や順番、湯加減、好みの石鹸の利用、季節の柚子湯など、利用者の希望に応じて、ゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。家族から「入浴回数を増やして欲しい」と要望があり、「バック」を取り入れて入浴を楽しむ工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭や手浴、足浴、シャワー浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。又、個々の生活歴・生活リズムを確認し、その人にとって適した睡眠・休息を意識しております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。又その人に合った服薬方法を実践し、必要な方にはオブラートを使用しております。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームお手伝い等通じて役割を担っていただき、「有難うございます」と感謝の気持ちを伝えております。又、買い物支援では、お好きな物をご自身で選んでいただき、ピクニック形式での外出支援等、ご利用者様が「楽しい」と感じていただける様、対応しております。園芸・畑作り等通じ、自然と触れ合う環境整備にも努めております。	掃除(モップで掃く、拭く、玄関の掃除)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、プランターに花の苗植えや花の水やり、新聞紙でゴミ箱づくり、草引き、新聞を読む、日記をつける、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、歌を歌う、かるた、トランプ、オセロ、ぬり絵の壁画作り、カレンダーづくり、ラジオ体操、口腔体操、ふーせんバレー、なぞなぞ、しりとり、脳トレ(計算、漢字、ことわざ)、季節行事(夏祭り、盆踊り、どんと祭り、敬老会)、外出(日米コンサート、野球観戦、豆腐づくり)、外食、喫茶店に出かける、ボランティアの来訪、幼稚園児との交流など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。個別に馴染みの美容室でのカットや、外の空気を吸いたいとおっしゃられる時は、付き添わせていただいております。個別支援に対しても、ご本人様のニーズ把握、実践を心掛けております。又、定期的に行っている外食に関しては、嗜好に合わせたお店を選び、実施しております。	近隣の散歩や買物(スーパーマーケットやコンビニエンスストア)、馴染みの美容院の利用、馴染みの喫茶店でお茶を飲む、季節の花見(桜、バラ、紫陽花、チューリップ、紅葉)、ドライブ(自宅、潮風公園、錦帯橋、山賊の季節飾り)、初詣、定期外食、日帰り旅行(広島カープ野球観戦)、日米コンサート、スタッフの「一人や広島の大規模スーパーマーケットに出かけている他、家族の協力を得て外食に出かけるなど、本人の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。都度ご本人様が要望される物品を確認・一緒に買い物等へ行っております。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご家族様が知り得たい情報の内容記載を意識し、生活全般が分かる様、都度書式変更をしております。ご本人様が電話を掛けたい時、ご家族様からの電話等にも速やかに対応しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様やご家族様が楽しめる様、工夫しております。裏の畑や玄関先には季節の野菜・花を植え、ご利用者様と一緒に水遣り等しながら、季節感を感じる様にしております。土地柄寒暖の差がある為、ご利用者様の状況を把握しながら、空調調整を行っております。スタッフの行動がご利用者様の不快に繋がらない様、必要に応じスタッフには伝達しております。	両ユニット共に中央に位置するリビング兼食堂は明るい陽ざしが差し込んでいる。室内には食卓と椅子が用途に応じていつでも配置換えできるように配置してある。大型テレビのあるホールにはゆっくりくつろげるソファがあり、すぐに使用できるようにレクリエーションの道具を置いている。壁面には利用者の活動場面の写真や利用者の作品が飾ってある。室内の温度や湿度、明るさ、音も適切に調節して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。室内で転倒のリスクがある方に対しては、ご家族様とも相談し、配置変更等動線の確保に努めております。日々の整理整頓・定期的なエアコンフィルター・換気扇清掃を実施し、ご利用者様・ご家族様に満足して頂ける様配慮しております。	使い慣れた寝具や和筆筒、洋ダンス、籐椅子、三面鏡、仏壇、テレビ、ラジオ、置時計、本、装飾小物、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、洋服掛けスタンドにはお気に入りの洋服が掛けてある。壁面には家族写真や自作の水彩画、ぬり絵、カレンダーを飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日：平成 31 年 4 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的訓練ができていない	応急手当や初期対応の定期的訓練を継続する事で全職員が実践力を身に付ける事ができる	・看護師による定期的な勉強会を行う ・内部研修だけでなく、外部研修にも参加し沢山の学びを得る	12ヶ月
2	36	消防訓練に地域の方の参加が少なく協力体制が構築されていない	定期的に行う消防訓練に、地域の方に参加頂き、いざという時の協力体制を構築する	・消防訓練には近隣の方の参加を促し、協力体制の構築を図る ・イベント等に地域の方をお呼びし、ホーム内へ足を運んでいただく機会を増やし、ホームの実態をより知っていただく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。